

## 第5回 中学校給食推進連絡協議会 会議録

■開催日時 平成26年7月14日（月）

16:00～17:30

■場 所 高津市民館 第1会議室・料理室

■出席者 座長：川崎市PTA連絡協議会 齊藤会長

副座長：教育) 中学校給食推進室 望月室長

委員：小学校校長会 鈴木校長

中学校校長会 渡邊校長、伊藤校長

川崎市PTA連絡協議会 小原前会長、伊藤副会長、宮嶋事務局

川崎市教職員組合 倉田副委員長、阿部書記長

教育) 野本企画課長、小田桐教職員課長、邊見健康教育課担当課長

森中学校給食推進室担当課長、北村中学校給食推進室担当課長

事務局：教育) 中学校給食推進室 二瓶担当係長、細見担当係長

新田主任、谷口主任、葛山職員

※欠席者：山崎校長、教育) 市川指導課担当課長

■座長交代（進行 事務局）

— 資料確認 —

— 川崎市PTA連絡協議会会長交代による座長交代 —

— 新委員の就任 —

— 新座長挨拶 —

■内 容（進行 座長 齊藤会長）

— 資料1説明（小・中親子方式に係る小学校調理室等調査報告書） —

事務局 調査報告については7月22日に開催される教育委員会会議で報告していく

委員 現実問題として小・中親子方式はかなり厳しいなというのが現状。既存の給食室はスペースが限られており、教職員と子どもの数を合わせると、よく調理しているなという学校もあり、時間内に給食を作るというのが厳しい状況にある。その中で中学校の給食もとなると現実的には厳しいのではないか。実際現場を見て小・中親子方式を一律にやるのは難しいと思う。

— 資料2説明（実施手法ごとの事業費用の試算について（平成26年7月改定） —

委員 小中親子方式は何校を対象としたのか

事務局 1小1中で50校。

北九州市では、複数校から配送している学校もあるが、小・中親子方式を実施す

るのであればしっかりと給食室を整備しなくてはならないので、1対1という想定をしている。

委員 おそらくその方式では1.5倍の調理となるので親子方式は無理ではないか。学区は普通の中学校で3小1中もしくは2小1中であり、そう考えると確実にできない。

事務局 しっかりと衛生管理が整った環境を用意するのが前提。今小学校で苦労しながら衛生管理については人の目を増やすなどの工夫で頑張っているところを、さらに食数を増やして同じように頑張れというより、必然的にそれが発生しない環境を作っていくというのが、中学校給食を始めるにあたって大事なところ。安全安心面を考えた視線でしっかり整備していくことが必要である。

委員 試算について、基準や考え方がきちんとしてれば問題ない。北九州市を見ている人から思えば、2つの小学校ならば可能だとの話がでるかもしれないが、それに対し安全安心面を考えて、この整備内容との話をしっかりする必要がある。

— 2時間前に保温食缶にいれたスープの温度確認と食器サンプル確認（資料5）—

（料理室に移動）

（食器サンプルの概要説明及び、保温食缶説明と温度測定：表面温度計にて）

保温食缶食材温度	14:40	食缶へ配膳時	76℃
	16:40	スープ皿配膳時	73℃

（PEN製スープ皿にスープを配膳し委員全員で試食）

（別の保温食缶に水を入れ、横向きにした際に水が漏れるかのテスト）

（重さの体験）

（材質の異なる食器6種類にスープを入れて、皿の熱伝導率を体験）

委員 スープは十分に温かい、熱いぐらい。

委員 食器の種類により、熱さの伝わり方が違う。  
アルマイト食器は熱くて食器の下部を手で持てない。  
強化磁器食器も結構熱が伝わる。  
他の食器は同じように感じる。

委員 40人分のスープが入った食缶は、生徒一人で運ぶのには重い  
食缶を倒したら多少水が漏れたが、給食がなくなってしまうという事は無い。



— 資料3説明（食物アレルギーに関するアンケート） —  
（調査期間 7月10日から18日）  
（特に意見なし）

— 資料4説明（千葉市視察について） —

委員 センターはきれいな場所だったが、無機質で工場で食事を作っている。身近なところというイメージはない。自校調理とは感覚的に違う。  
学校ではちょうど4時間目が終わったところから見ていたが、体育のクラスは事前に給食当番の準備がしてあっても時間がかかっていた。  
学校にエレベーターが設置されていて、通常は給食でも使わないようだが、この学校では汁物を運搬するのに使っていた。  
生徒は落ち着いていて、給食当番以外は着席し読書をして配膳が終わるのを静かに待っていた。  
見学した学校は1学年3クラスだったが、これが10クラスだと相当慣れないとできないなと思った。

— 資料5説明（各種材質食器の性質・性能について） —

委員 今小学校の食器は何を使っているのか

事務局 アルマイトからABS樹脂製食器に毎年1学年ずつ更新している

委 員 食器の交換年数はどれくらいか

事 務 局 法定耐用年数は5年である。本市では今アルマイト製からABS樹脂製食器へ更新している最中なので、まだ一斉に交換したことが無いが、小学校は6年でちょうど卒業するのでそれぐらいで交換となるかもしれない。  
メーカーとしては8年は使用できるとも伺っている。

委 員 PEN製については、表面加工されているからか触感がよかった。最近できた材質なのか。またそれから今までの間に何か問題があったら教えて欲しい。

事 務 局 2002年から使用されている。その間特に問題は無いと業者から伺っている。

— その他 —

委 員 教員の事務について、公会計化に大きな関心がある。現在どんな状況もしくは考え方が

事 務 局 公会計化が市全体の事務の軽減につながるのかどうか。他都市の状況等を注視したい。

委 員 今後の運用等の調整について、中間取りまとめに安全性がうたわれているが、細かい部分をどうするのか。例えば食缶を教室まで運ぶのか等について、どうやって調整をしていくのか。実施方針を出した後に細かい打合せをしていくのか、それとも個々の学校は今後相談という形になるのか。  
中間取りまとめは食育の中ですべて一緒になってしまっている。先生の負担（分担）をどのように決めていくのか。

事 務 局 できるだけ早く示していきたい。

— 今後について —

今後、素案策定等作業を進めていく

次回の中学校給食推進連絡協議会は8月に行いたい。

(17:30 終了)